

# 令和 5（2023）年度事業計画（案）

令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで

## 〈電話相談「認知症 110 番」事業〉

令和 4 年度の相談件数は 3 月 6 日時点で 956 件と例年のペースを下回り、1000 件超にとどまる見通しとなっています。原因を究明するとともに SNS 等の活用も併せて告知を強化し、令和 5 年度は 1100 件台に乗せていくことを目標とします。また引き続き研修等で相談員のスキルアップを図り、より信頼される質の高い相談機関になることを目指します。

電話相談には年間一千数百万円の経費がかかり、令和 5 年度もこの所要額の確保が最大の課題となります。世界最速級で高齢化が進むなか、各方面に今後ますます電話相談の必要性が高まっていくことを訴え、企業、団体、個人からの協賛金、寄付金を確保して費用を賅っていく考えです。

## 〈シンポジウム事業〉

コロナ禍が収まった暁には会合形式による開催を検討しますが、費用対効果の観点から引き続きオンラインを積極的に活用していく考えです。令和 5 年度も質の高い企画を実施いたします。

## 〈調査研究事業〉

当財団発行の認知症ハンドブックは最後の改訂版発行から 6 年が経過しました。その間、認知症に関しては新たな知見が出てきていますが、費用を調達できず更新できていません。財源の確保が条件とはなりますが、内容の更新と同時に 6 冊の小冊子に分かれているものを 1 冊に集約することを検討いたします。

## 〈財団報「新時代」の発行〉

令和 5 年度は 139 号～144 号を発行します。一般社団法人「日本音楽健康協会」と連携し、同協会の機関紙との記事交換など紙面上、WEB 上での協業を検討していきます。

## 〈収益事業〉

今理事会で本財団の定款変更を承認していただき、新たに資格検定事業を実施できるようにする意向です。令和 5 年度には収益事業を始めることについて内閣府の了承を得たうえで、一般社団法人「生涯健康社会推進機構」と共催する形で認知症の 2 次、3 次予防に重点を置いた資格検定事業に取り組みます。将来的には収益確保策の柱の一つに育てていく考えですが、初年度はまず、赤字を出さないことを最優先課題とします。